



カナダ極地に自然保護公園 トナカイや野鳥の宝庫

カナダのユーコン準州の北方からアラスカにかけて、寒冷地特有の野生動物が多い。沿岸に広がる平原は渡り鳥とトナカイ、ブリテイツシユ、バーン、リチャードソンの各山脈はトナカイ、そしてオールド・クロウ川やユーコン川流域は渡り鳥の生息地として知られる。

トナカイ(ポークユバイン・カリブー)の数は、およそ十一万頭といわれ、アラスカ北東部からユーコン北部、ノースウエスト準州の一部にかけて、群れをなして移動する。大自然の中で生存している数少ないトナカイだ。

また毎年、夏や秋になると、一帯には何百万羽というガンや白鳥、鴨、アビ、シギ、カモメ、アジサシなどが、飛んでくる。渡り鳥にとって、格好の繁殖地である。

ここは、さらに世界で最もハヤササの多いところでもあり、そのほか、北極グマ、黒クマ、北極アオグマ、金ワシ、北極チャマー(イワナ的一种)の数少ない生息地でもある。

このような極地の生物を保護するために、カナダ政府はこのほど、四万平方キロ(日本全土のおよそ十分の一)にもよる広大な地域を、カナダ初の国立自然公園に指定した。

この決定を発表したヒュー・フォークナー北方大臣は、「一帯を保護する価値は、開発による利益よりも大きい」と判断した。この結論は、(バンブライン建設に関する)バージャー判事の勧告やエ

ネルギー庁の公聴会で示された証拠によっても、裏づけられている」と述べて、意気こみのほどをみせている。

発表によると、公園指定はインディアなどの土地所有権に関する話合いや、一帯で行なわれている狩猟・漁業・わな猟に影響を与えるものではない。また、資源開発のための新たな土地利用は禁止されるが、既存の開発権はそのまま認められることになっている。

日系三人にカナダ勲章 日本語教育の佐藤氏など

ほとんど半世紀を日本語教育に捧げた佐藤伝氏、永年にわたって華道の紹介・普及に努めてきた桑原正尚さん、そしてカナダのトップ官僚として過去四年間連邦財政を動かしてきたトム・シヨイヤマ(生山国人)氏に、十月十八日、首都オタワの総督邸でカナダ勲章が授与された。日系人が一度に三人も同章を受けるのは、これがはじめて。

佐藤氏は、一八九一(明治二四)年、福島県東白川郡近津村(現棚倉町)で生まれ、東京の青山師範学校を卒業。東京渋谷区の大和田小学校で教師をしたあと、文部省からバンクーバー日本語学校の教師として派遣された(一九一七年)。その後、同校(正式にはバンクーバー日本共立国民学校、のち共立語学校、日本語学校と改称)の校長となり、その半生を英子夫人と共にカナダでの日本語教育に尽してきた。現在は、バンクーバー日本語学校の名誉校長。「子どもと共に五十年——カナダ日系教育私記」(夫人との共著)など、著書も多い。

桑原さんは仙台生まれ。東京の共立女子学院を卒業したあと、一九二三年、カナダへ移住。すでに習得していた小原流盛花に加えて、竹屋流盛花投げ入れや盆景を修業し、バンクーバーのインタナショナル・クラブで茶の湯、日本語、生け花を教えた。

戦後は、モントリオールで幼稚園設立にあたるほか、華道竹屋流クラスを開設するなど活躍。竹屋流家元の参与で、カナダ竹屋流本部の設立も認められている。昨年は、英文カラー版の「いけばなと私」を出版して、好評を得た。

シヨイヤマ氏は、両親が熊本県出身。一九三八年に発行された最初の日系英字紙「ニュー・カナディアン」の創立者の一人で、戦後はサスカチュワン州政府の高級公務員をへて、一九六四年、連邦政府の経済理事會に加わった。

その後、大蔵事務次官となり、カナダ政府の財政運営では最大の実力者といわれている。

補欠選挙、野党が勝利 大勢には影響なし

死亡や辞任で空席になった議席を埋めるため、十月中旬、連邦下院の補欠選挙が行われ、野党の進歩保守党が十五議席のうち十議席を獲得した。選挙前と比べると、保守党が四議席追加し、与党の自由党が七議席から二議席に減り、新民主党が一議席加えて二議席を獲得した。社会信用党は選挙前の一議席を守った。自由党が失った選挙区には、オンタリオ州の五議席が含まれている。中間選挙の結果、各党の下院における

勢力は次のように変わった(カッコ内は一九七四年の総選挙による議席数)。

- 自由党 一三六(一四一)
- 保守党 九七(九五)
- 新民主党 一七(二六)
- 社会信用党 九(一一)
- 無所属 五(一)

これで見ると、自由党は依然として下院二六四議席の過半数を占めており、大勢に影響はない。

中嶋氏が釣りの油絵展

釣人として、また釣人を描く画家として知られる中嶋憲氏が、十月はじめ、東京の三越本店新館ギャラリーで、ユーコン川や太平洋など、カナダの雄大な自然の中で釣りをする姿を描いた作品を展示し、釣りファンを喜ばせた。

同氏の作品は、全国各地の三越ギャラリーで展示されることになっている。



中嶋氏がカナダ大使館に寄贈した絵の前に、左からランキン大使、ジム・マーレー(BC州サーモン・ダービー会長)、中嶋、高田弘之(日本ルア釣り連盟事務局長)の各氏。